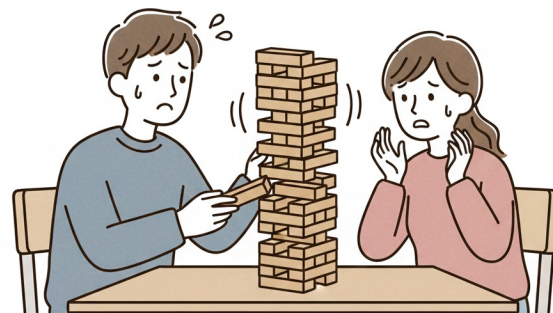


子育ては、ジェンがだ 土台を作り、整えながら積み上げる

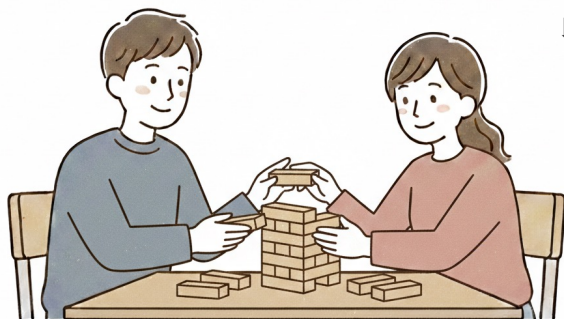
ジェンがは積み上げるほどバランスをとるのが難しくなります。バランスを保つためには、最初の段階を丁寧に進めていくことであり、そうすれば高く積み上げてもバランスを保ちやすくなります。反対に、最初の段階を雑に進めてしまうと、高く積み上げた時にバランスが保てなくなり、早く崩壊してしまいます。

これは子育てにも共通しています。

たとえば、幼少期に親子の関わりを丁寧に積み重ねていれば、思春期になっても関係が大きく揺らぐことはありません。もちろん、思春期には反抗期が訪れますが乗り越えられるでしょう。「今さら父親面しないでよ!」と言われないためにも、幼少期の土台作りが重要です。



もし、幼少期に土台をうまく作れなかったも…と感じることがあっても、心配ありません。ジェンがではやり直しはできませんが、子育ては違います。上に積み上げることがいったんやめ、土台から作り直すことができます。上に積み上げることがやめる、とは、その子に年齢相応のことを求めることはいったん脇に置いておくということです。年齢相応の自立・自律した生活、学業等の努力を求めることも大切ですが、そればかりに目を向けることは、既に崩壊しかけているジェンがの上に積み上げ続ける行為と同じです。小さい時ににもっとこんな風に関わってあげればよかった、ということ、今からでもやり直してみましょう。



親子関係がぐらつかない土台を作るために「貯金式コミュニケーション法」と「子育てを攻撃力と守備力にたとえて考える」という考え方があります。この2つの考え方で、子どもにどう関わるかを考えてみましょう。また、思春期の子どもの特徴を理解した関わり方については「思春期とは」をご参照ください。